

「五葉山の魅力」

五葉山自然倶楽部
創立10周年に寄せて

③2

「山を恐れる初心に帰れ」という言葉がありま
す。どんなに山歩きの経
験があっても、どんなに
山のことを知っているつ
もりでも、山に入るとき
は装備を整え体力や経験
を過信せず、自然に対し
て謙虚な気持ちを持ち決
してムリな行動をしては
いけない、ということだ
す。

「山を恐れる初心に帰れ」という言葉がありま
す。どんなに山歩きの経
験があっても、どんなに
山のことを知っているつ
もりでも、山に入るとき
は装備を整え体力や経験
を過信せず、自然に対し
て謙虚な気持ちを持ち決
してムリな行動をしては
いけない、ということだ
す。

山登りは楽しいもので
す。でも、山では何が起
こるか分かりません。山
登りに慣れれば慣れるほ
ど、山登りを始めたころ
のワクワクした気持ち
と、山は怖いと思う気持
ちを忘れてはいけません
そして慣れた山であって
も登山道を確認したり装
備を整えて登らなければ
いけない、と改めて思
いました。

【執筆者プロフィール】
滝沢村鵜飼鬼越在
住、四十七歳。日本山岳
ガイド協会認定登山ガイ
ド。春夏秋冬は個人ガイド
やツアーガイドで岩手の
山を中心に東北の山々を
歩き、冬はスノーシュー
ガイドで岩手の里山や森
を歩く。実践するのは自
然を感じる山歩きと多く
の人との Sharing Nature。
環境省自然公園指導員、
岩手県環境アドバイザ
ー、岩手山青少年交流の
家登山指導員。登山ガイ
ドオフィス山の風主宰。

それは、例えば北アル
プスのような三千級級の
山であっても、東北の山
や歩き慣れた地元の山で
あっても同じなのです。
そのことに改めて気づか
せてくれたのが五葉山で
す。

ほろ苦い思い出

滝沢村鵜飼鬼越 大友 晃

平成十九年五月十六
日、櫛ノ木平からピスト
ン(日帰り登山)した時
のことです。平日であっ
て、自分の他に登山者は
いませんでした。アスナ
口の樹林や奇木を楽しみ
ながら登り、早池峰山や
太平洋の眺めを二人占め
して下山にかかりまし
た。

狐に抓(つま)ま
れたような気持ちになり
ました。そして、道を探
して登ったり下ったりし
ているうちに方向が分か
らなくなり、登山道に戻
れなくなったのです。
パニックになりそうな
気持ちをなんとかこら
え、下るのをやめて位置
確認ができる日の出岩ま
で戻ろうと決めました。
が、慌てて歩き回ったせ
いで日の出岩の方角も分
からなくなっていました。

いざという時はツェル
ト(簡易アンテナ)や非常
食、無線機もあるのでピ
ーク(予定外の露営)
だと腹をくくり、登る方
向を決め、とにかく上を
目指しました。時間が長
く感じられました。
どこをどう登ったのか
よく覚えていませんが、
藪を掻き分けなんとか日
の出岩に戻ることができ
たのです。道を外れたこ
とに気づいてから一時間
ほどかかったことなど
を思い出しました。

五葉山は、私を山登り
の原点に立ち返らせてく
れた山になりました。

リレー エッセイ

平成十九年五月十六
日、櫛ノ木平からピスト
ン(日帰り登山)した時
のことです。平日であっ
て、自分の他に登山者は
いませんでした。アスナ
口の樹林や奇木を楽しみ
ながら登り、早池峰山や
太平洋の眺めを二人占め
して下山にかかりまし
た。



五葉山ガイドツアーでお客さんと記念写真
撮影(中央が筆者)